

現代コリア

10
平成19年
【第475号】

さらに不確実さ増す大統領選挙
それでも後まわしにされる？ 核の放棄
韓国が描く核問題の「出口戦略」
引き潮のときは拠点が必要
映画「パッチギ LOVE&PEACE」の欺瞞を切る
韓国で人気がないサムスン



農村風景(3)

引き潮のときは 拠点が必要

平沼赳夫 (衆議院議員、拉致議連会長)

松原 仁 (衆議院議員、拉致議連事務局長代理)

(司会) 佐藤勝巳 (現代コリア研究所所長)

安倍カラーの欠如

佐藤 今回の参院選は、自民党の大敗、民主党の大勝という結果でしたが、平沼先生、自民党の大敗の要因は何だとお考えでしょうか。

平沼 いくつか要因があると思います。自民党は安倍政権という名で三七議席しかとれずに、一人区は二九ありましたが、六勝二三敗という惨憺たる結果でした。一つは、安倍総理が小泉流のポピュリズムに走ってしまったって、靖国神社にお詣りしたともしないとも明らかにしていない。これは中国や韓国への配慮です。安倍流のカラーを出さずにポピュリズムに走ったということが、非常に大きな失望感となりました。

また閣僚の問題やお友だち内閣であったことの二つが大きく底辺にあつたのではないかと考えています。

自由民主党は数を頼んで、奢り高ぶって、ある意味では威張っていたところがあり、有権者の感情を害したのではないかと分析しています。

佐藤 松原先生、民主党の大勝の原因は何だとお考えですか。松原 簡単に言えば、敵失がいちばん大きいと思います。

私は、安倍さんはいいものを持っていると思っています。安倍さんは総裁選で圧勝して総理になりました。そこに安倍さん自身の中にも、ある種の奢りがあったのではないかと思います。たとえば、年金問題に対して危機対応がまず過ぎた

ことです。即座に「これは問題だ、がんばらなくてははいけな
い」と言えはいいものを、「あまり大げさにしないほうがいい
い」と言ってみたりしたことです。

国民は、社保庁の問題は自民党の問題だとは思っていなか
ったのに、対応の悪さで「これはだめだ」ということになっ
た。つまり安倍さんの危機対応能力があまりにも欠落してい
たことと、いま平沼先生がおっしゃったように、「自民党の
奢り」だと見たわけです。

自民党はこの選挙の前までは三〇〇議席をとったという奢
りがあったと思います。民主党が勝った理由をあえて言えば、
一部の議員によるきわめて専門的というかマニアックな社保
庁問題の追及です。自民党が適当に言ってお茶を濁す、とい
うようなことが許されなくらいに、理詰めで攻撃できる材
料を二年近く蓄積してきました。社保庁の役人より現場を知
っているほど、彼らは精通していたのです。

民主党は「格差」を争点にしていたのですが、格差の議論
は出ていません。国民一人一人の懐に直結する年金問題が一
番わかりやすかったのです。

平沼 就任当初七〇%を超える支持率が一挙にガタ落ちにな
った。それは靖国神社参拝や池田大作氏との面会などを曖昧
にしたことで、支持率が五〇%を切りましたが、本来の安倍
カラーである憲法、教育基本法、防衛庁の省昇格などをおこ
ななしたところ、支持率が戻っています。もともと安倍カ
ラーを出せばいいのに、年金の問題で大きく躓いたのは事実

であると私は思っています。

松原 もう一つ私は、安倍さんの「言葉」に問題があると思
います。参院選の前に、「小沢をとるか、安倍をとるか」と
か、柏崎地震による原発の放射能洩れでも、早い段階で乗り
込んで「大丈夫」と言った後に「ちょっと洩れています」と
いうことになり、IAEAの調査になってしまった。また、
「美しい国」と言いながら、靖国参拝をしたともしないとも
明確にしない。だから、この人は言葉が「ぶれる」のではな
いかという認識が一つあります。

私は、安倍さんが選挙に負けた直後におやめになることが
正しかったのではないかと、思っています。安倍さんは、ま
だ若いのだから、ここは引いてがんばってこい、と国民は考
えているのでは。そこを辞めないというのは、平沼先生どう
なんですか。

なぜ辞めないのか

平沼 なぜ辞めないのかという意見が強くなってきているこ
とは事実ですが、本人は、憲法、教育基本法、官僚の問題
等々「戦後レジームからの脱却」という自分に課せられた課
題をしがみついででもやろう、ということでも留任を決めたわ
けです。強行採決を連発して有権者の弊害を買いましたが、
最初から首尾一貫して安倍カラーを出し、国にとって必要な
ことだから強行採決をしてでもやるのだと言えば、説得力が

出たのですが、右往左往した挙句、最後に強行採決したので、やはり不評を買ったと思います。

佐藤 平沼先生がおっしゃっているように、私は外から見ておりまして、保守本来の正統派政治家が出現したという期待がありました。それが現実にはそうではない。特に、歴史認識の問題、慰安婦の問題等です。こいブレが生じてきている。これは保守派から見ても、何だ！となりません。

松原 政治には政策と政局がありますが、政局でやる政治が多かったと思うのです。信念よりも権力維持のための政局政治をやる政治家がほとんどといえる中で、安倍さんは政局無視でいく政治家だ、と私は思っていました。ところが慰安婦問題で、プッシュは安倍さんの謝罪を許容したみたいなのことを言っている。向こうが謝罪と受け取ること自体が問題です。いや、私はこう言いましたと言ったところで、それは国際社会では認められない。

慰安婦はなかったと言いつつ、南京もなかったと言いつつ、憲法は絶対変えるべきだ、拉致は絶対取り返す、と言いつつというところでやっていけばよかった。そもそも安倍さんが人気を得たのは、拉致問題で北朝鮮に一步も引かないという姿勢を見せたからです。その安倍さんが、慰安婦問題やお金の問題でぐちゃぐちゃになってしまった。安倍さんを支持していた保守系の文化人は、どうなっているのかと首を傾げている。**平沼** それに関連して、「ワシントンポスト」紙に一面広告を出したのですが、そのとき、われわれの仲間も「反対だか

ら、自分たちの名前も使ってくれ」ということでした。自民党から相当数が出てくると思っていたのですが、いざ掲載する段階になったら、その人たちの名前が出てこない。そのうちの一人に「出すと言ったのに、何故出さないのか」と尋ねたところ、官邸から止められたという。情けない話です。官邸が止めたということは、少年官邸団もいるけども、その主は安倍さんです。

松原 それには民主党も絡んだのですが、比率から言ったら民主党の方がパーセンテージが高いのです。

平沼 三〇人以上はいると思っていたのが、潮が引くようになくなってしまった。それが官邸から「さし控えてほしい」と言われたからだというのですから、政治家ではなく政治屋が多いのですね。

本来の安倍に立ち返れ

佐藤 保守派の人たちは、戦後初めて自分たちが願っているような、普通の国にしてくれる政治家、首相が出てきたとみんな期待しているのに、その期待とは裏腹に大きくずれていった。自民党の奢りを痛感したのは、大派閥の大幹部の話を聞いたときです。告示前でしたが、年金問題に揺れる国会に逆風が吹いているという危機感はなく、その様子は奢りではなくたるみきついているとしか言えない話の内容でした。**松原** 三〇〇議席のトラウマです。悪い方の。大きくは、安

倍さんが変質したというところで利害関係でつながっている人たちは支持するでしょうが、思想的に共感を持っていた人たちが離れたというのは事実だと思います。

佐藤 投票はするが、目の色変えて運動するということにはならないですね。

平沼 私の地元でもそうでした。去年の春から旗幟鮮明にして、参議院の幹事長であった片山さんを応援するように後援会の幹部四〇〇名も集めてお願いしました。「先生がそこまて言うから投票はするけれども、運動はしない」という人が多かったです。

松原 なんて安倍さんはここで変わったのですかね。非常にわからない。

平沼 私は雑誌（「文藝春秋」九月号）にも書きましたが、少年官邸団、人事で失敗したのです。一七人閣僚がいますが、一一人が新人です。柳沢君は安倍総裁出現の選対本部長ですから論功行賞です。幹事長の中川秀直氏も「左にウイングを広げて安倍カラーをより強いものになりたい」と言った。それではダメです。国民が欲していたのは、健全な保守なのですから。

松原 中川秀直さんが拉致問題で発言しているのを見たことがないのに、何故安倍さんが中川秀直さんを幹事長にしたのだらう。中川昭一だったらわかりますが。

平沼 それは森さんの意向でしょう。

佐藤 安倍さんは、人事について決断力に乏しいです。

平沼 私と同じような思想信条ですから、惜しいと思うのだけれどなあ……。

松原 同志だと思っていました。

佐藤 なのに、ああいうふうには訳がわからなくなっていく。不思議ですよ。断固たる意思の不足なのか……。

平沼 問題の閣僚を一掃して手直しし、安倍カラーをしっかりと出して保守をしっかりと打ち立てることだという意見を雑誌（上述）に書きました。安倍カラーを鮮明にしないとダメです。左にウイングを広げるなんて、錯覚です。

佐藤 安倍カラーを出して、それで選挙に負けるとか、支持を失うということであれば、辞めればいいわけです。

松原 それがいちばん男をあげる道でした。靖国も起死回生で行くかと思っていたのですが。戦後レジームと言って憲法をはじめいろいろやると言っているのであれば、せめて八月一日に行かなくて憲法ができますか。脅かせば引くと中国をはじめ皆思ったでしょう。怖さがなくなりました。

平沼 ぼくは小泉さんを認めていないけれども、彼は曲がりなりにもやりつづけて、最後は八月一日にお詣りして、今年もお詣りしたわけです。中国もオリンピック、万博を控えて微笑外交に来ているわけだから、ここで毅然とやらなくてはいけない。

松原 一五日に参拝しなかったことで、政策はできないのではないかと思う。

平沼 ぼくは東京にいるかぎり毎日行け、と雑誌にも書きま

した。

佐藤 安倍さんが行かないと高市早苗さんを除く他の閣僚がすべて行かないということが、とても不思議でした。トップの顔色をうかがって自分の身を処していくというのは人の常ですが、靖国に対してどういう態度を表明するかというのは、歴史をどう認識するかという問題ではないですか。この国を守り育ててくれた先輩たちに対してどういう意志を表明するかという、言ってみれば踏み絵みたいなものではないでしょうか。

平沼 ほくは地元に戻っていたので、県の護国神社の式典に出させてもらいました。おかしいなあ。

佐藤 正常な保守はかなり難しい、とこの一年を見ていて思っています。

松原 安倍さんの責任は大きいと思います。絶好の機会であったのに、みずからが火を消してしまった。どうやって国民の意識を燃え上がらせるのか。安倍さんが総理にならないほうが、日本の保守のためにはよかったです。中途半端です。

平沼 五人の補佐官を設けましたが、バツジのついたものを補佐官にしたらダメです。民間の有識者を補佐官にして意見を聞くのならいい。バツジが付いていれば、自分のパフォーマンスをやってしまおうし、責任をとらない。広報担当の世耕君は、NTTの広報課長でマーケティングをやっていたことは認めますが、一国の政党の広報にマーケティングなんて

関係ない。バツジの付いていない中山恭子さんまでバツジ付けるというのは、ほくに言わせるとんでもない話です。

松原 政治におけるマーケティングは世界観を持っている人がやらないと。

平沼 マーケティングでやってはダメですよ。

「拉致の進展なくしてカネは出さない」

佐藤 六者協議の枠内で拉致も議論されているのですが、この六者協議が米朝の急接近によって、安倍政権が主張してきたような方向には動いていない、と私は見えています。安倍政権が「拉致の進展なくしてエネルギー支援はない」ということでやってきたのは、特筆大書すべきことです。具体的には、一〇〇万トンの重油代を拉致が進展しなかり日本は出しませんということ。日本政府の言う「進展」とは、北朝鮮が日本人の拉致を認めて全員を帰す協議が始まったときだと安倍さんや中山さんから聞いております。「進展」の中身はものすごく高いハードルです。これは私に言わせると、すごい中身の決定です。これでいま、六者協議の交渉に臨んでいる。

北朝鮮は、日本は拉致、拉致と言っている、排除するか、孤立させてしまおう、という考えをもっている。それにヒルがピタッとくっついて動き出しており、韓国は最初から北を支持していますから、日本の主張は、孤立しているかの

ように見えるのが、拉致問題の最大のポイントだと見ています。

この日本政府の方針を貫き通さなかったら、どうなるのか。拉致は元の黙阿弥、完全に解決の見通しを失ってしまう。この安倍政権の方針を貫くためには、どうすればいいのか。いま救う会が考えているのは、地域の救う会主催、地方自治体、県、県の議連の三者が一体になって国民にアピールしていく。それを拉致対策本部、外務省、総務省、法務省が後援団体としてついでいくように国民運動を展開していくこと、六月一六日和歌山、九月二二日山口、一ヶ月頃には熊本、愛媛で集会をもとうと取り組んでいるところです。

国民が政府の方針をバックアップしていくことによって、日本政府の国際的発言力を強めていく。具体的には、アメリカに対して日本は拉致の解決なくして妥協しない、というメッセージをどんどん送りつけていくことが大切なことだと思っているのですが、民主党の前原誠司さんが「油を援助すべきだ。バスに乗り遅れる」と国会で発言したのは、非常に意外な印象を受けたのですが、そのへんはいかがでしょうか。松原 前原議員の発言は、私は極めて遺憾だと思っています。バスに乗り遅れるという議論ではなくて、行き先の間違ったバスに乗らない方が正解であって、民主党の中でも、拉致問題について関係している議員はそういう発想は持っていない。前原議員は、拉致問題に対して恐らく深い造詣を持っていないのではないかと私は思っています。彼の専門である安

全保障を優先しようとするのは、人間の性としてわかりますが、拉致は国権の問題ですから、私は遺憾であると思っています。

米国に同志を！

問題は、拉致問題の宙づり状態をどういうふうに関係解決するのです。われわれは毅然として、北朝鮮側がこの問題に関して進展を見せないかぎりは重油の支援はしません、というのはいいと思うのですが、物事には満ち潮のときもあれば、引き潮のときもある。引き潮のときというのは何かというのは選挙をやっているときわかるのですが、満ち潮のときは後援会がなくても票が取れます。引き潮（逆風）になってきたら、後援会がないと票は取れない。

いま日本は拉致問題で明らかに逆風に晒されています。そのとき重要なのは、六カ国協議の中で日本の同盟はアメリカしかないことです。米国という抽象的なアメリカと付き合っているのは、これは満ち潮のときです。引き潮のときは、米国の中の〇〇という固有名詞の上院議員、下院議員で拉致問題に対して共通の認識を持つ人間がいるかどうかということが一番大事だと思うのです。

つまり、満ち潮のときに引き潮を想定するのが危機管理です。安倍さんは総理になった直後に拉致対策本部をつくらなかったことは評価するのですが、同時に官房機密費を使うなり

して、国益なのだからアメリカの個別の上院議員を三人でいいですから、ロビイスト活動で掘んでおく。本気で拉致を考えてくれる議員が三人いたら、それが何倍もの影響力を持つことになります。引き潮時の対策は、抽象的ではなく、個人に訴えることです。個人に拉致問題を一緒に取り組もうと呼びかける。そのときのキーワードは「人権」です。人権問題として訴える。今も民主党は人権問題として拉致をやらうとやっています。

人権というと、非常にイメージが広がる。しかもそれが具体的に拉致だということ。人権の問題であるというアピール、アブローチを徹底的にして、人権派で影響力を持つような議員を共和党に三名、民主党に三名、というふうにするのが戦略的外交で主張する外交です。そういう橋頭堡を築くことをしないで、日米は良好です、という抽象論を言っているようでは。アメリカの個人で誰が拉致問題に関心を持っているかの情報を手に入れ、接触していく、というような戦略が必要であると思います。

拉致と言っても、引き潮のときは、違った切り口でもっていかないと難しいのではないかと思います。ただ、佐藤さんがおやりになっている拉致救出運動は、人権ではなく、拉致一本で徹底的に国内世論を啓蒙すべきです。

人権で攻める側と拉致一本でやる側と個人の政治家と付き合うのというふうな、重層的な戦略をとるべきだと私は思います。それを政府が怠ってきたということが空虚な気がしま

す。

平沼 同感です。日本ははっきり言って核のない国ですから、六者協議でも切り札を持っていないのです。六者の中で北朝鮮の思惑は、日本は相手にしなくてもいい、韓国とアメリカとでシャンシャンと決めればいい、という状況です。これに対して日本は、そうではない、日本の主張はしっかり取り上げるべきだということを認識させるということは、松原先生の言うように、アメリカを抱きこまねば仕様がなし。日本のアジア局長一人が踊っていても始まらないわけです。アメリカの両党に個人でしつかりとした橋頭堡を築くというのは私は賛成です。家族会、救う会、官邸がそういうことを是非やっつけてほしいということであれば、私はひと肌もふた肌も脱ぐ覚悟は持っています。

ただ北朝鮮サイドから、どこそこで会ってくれとか——政治家の中にはホイホイ会いに行っている人もいるけれども——ということではなく、拉致問題はすべてがうなずいたところで行動を起こすことであれば、議連の会長として私は行動を起こしていきたいと思っています。

佐藤 われわれの主張を支持してくれる民間における右派の国際的連帯を、一二月に予定しています。本気になってやる人間が何人かいれば動かすことは可能なのだということ、アメリカの民主党や共和党の心ある議員と、しつかりとこの問題で連帯を確立していく具体的な動きを先生方にもお願いしたい。

平沼 横田夫人がブッシュをあそこまで動かしたということもあるわけですから、アメリカの議員の中に連携を持ってくられる人はいらぬと思うのです。

松原 われわれはその辺の情報が不足していますから、誰が共鳴してくれるかという情報をこの運動に携わってきた斎木（外務省元審議官・現在駐米公使）さん等に出してもらい、平沼先生に会っていただく。救出運動が最初の勢いでいければよかったです。勢いだけではないか状況にいま入っているわけですから、今度は丁寧に個別の政治家にアタックするという地道なことを積み重ねていかないと、潮が引いたときの砂の城が崩れるように、盛り上がったものが一気に崩れてしまいます。言いたくないですが、こういうことをなぜ安倍さんはやらなかったのでしょうか。拉致対策本部を作ったときにやるべきだと思っていました。勢いが永続すると思うのはトラウマです。引き潮がくるのですから。

平沼 官房機密費はそういうときに使わなくてはいけない。松原 このことでどんなにお金を使っても、日本の国民が得る精神的利益はどんなに高く評価してもしすぎることはありません。どうもその辺が、戦略性があるのかどうか……と残念です。

佐藤 新しい情勢として、米朝の接近に対して中国側が、北朝鮮の覇権がアメリカ側にもつていられるのではないかと、いう警戒心が高まっています。そういう意味では、拉致について日中の連携の客観的情勢が生まれていると私は見てい

ます。

もう一つは、一二月に行われる韓国大統領選挙で与党・左派が当選するのか、右派ハンナラ党が当選するのかによって、拉致問題が大きく左右されてきます。日本が経済制裁をかけていても、韓国はコメ、肥料をはじめほとんど支援しているので、金正日政権は生き延びてきました。日本の特定な制裁で効いているものもありますが、韓国の支援によって金政権の母体を揺さぶられることはなくやってきました。

ところが、今度の選挙で保守派・ハンナラ党の李明博（元現代建設社長、前ソウル市長）が当選するようになると、今とは様子がかなり違ってくる。一定のブレーキがかかるようになった場合に、金正日政権がアメリカとくっついて何かをやらうとしても、南半部の韓国が積極的に参加しないということになってくると、東アジア情勢は大きく変わってくるでしょう。

この二つの動きによって、金正日政権がかなり大きく制約を受けます。それと、金正日の健康状態が不安視されていることです。八月一日から一三日まで視察したと報じられていますが、そのこと自体が異様であると、われわれは見えています。この暑い時期に、黒服を着ているような写真を掲載しています。本当に視察したときの写真かどうか、専門家には疑問視されています。したがって、金正日は亡くなっているのではないかと推測すら出てきています。北からの情報は、すべて金正日の健康不安説です。幹部の間には動揺が起きて

いるようです。

金正日健康不安説もある中で、日本が「拉致の進展がなければ、エネルギー支援もない」ということを断固として貫くためには、アメリカと中国の協力が必要です。二七日の内閣改造ではしっかりとした布陣をしていただきたい。ここで拉致問題でもブレてきたら、完全におしまいです。

松原 今のお話は、拉致問題にとって悪い話ではない。ただ中国が拉致問題解決に熱心になるとは思えません。中国が拉致問題に大してネガティブな行動をとらせないとということが大切です。先ほどアメリカの議員の共鳴者をつくれという話をしましたが、韓国の大統領選でハンナラ党が勝つということになれば、韓国も日本の側に立つということもあり得るわけですから、大きな転換点です。大事なことは、現与党は拉致問題に関して不熱心、反対なのです。私から、私が総理大臣なら、李明博氏に特使を派遣します。「反日」の強い韓国ではアメリカも恐れませんが、日本政府が「会いに来た」ということで、一緒に戦線を組みたいと申し入れることは、いま、安倍さんがやるべきことです。

金正日の健康不安説はいまのところわかりませんが、私は彼が死亡か逮捕されるか、取り除かれなかり拉致問題の解決はできないと考えています。何人拉致されているかわからないですが、金正日に何か起きた場合に、アメリカと組んでどうするのか、どういうふうには日本は招待所に救出に入るのか、という細かいことに備えてのプロジェクトを拉致対策

本部に構築すべきであろうと思います。

平沼 それは同感です。日本は戦後一貫して、策がない。戦略的にやったことがない。

佐藤 私は、政界再編が絶対必要だと思っています。健全保守の構築をもう一度やらなければいけない時期に来ているのではないかと。

平沼 この参院選は、そういう動きの出るチャンスではないかと思っていました。民主党さんが勝ち過ぎてしまっていて、いまは動きにくいので、次の総選挙かなと思っています。

松原 それはわからないですね。日本は常に外圧でしか変わらない国ですから。江戸時代も黒船が来て目覚めました。拉致も一つの目覚めだったのですが、拉致問題で国民が覚悟することを小泉さんは拒否しました。本当はあの段階で憲法改正等をやるべきでしたが、やらなかった。しかし、いまは適度の外圧が起こりうる環境にあると見ています。政治の世界だけで政界再編をやらうとしても無理です。国民意識が「今の二大政党では満足しない、新しい政党を望む」というように明確に世論調査などで出てくれば、再編は十分あり得ると思います。その場合、平沼先生が元気でいらっしゃっていただきたいという期待感が国民の中に大きいです。

佐藤 私のまわりでも、平沼先生に対する期待が大きいですから、リハビリをやって早く健康を回復してください。本日はお忙しいところ、ありがとうございます。

(八月二四日)